



世界に広がる“からし種運動”のネットワーク「声なき者の友」の輪
 ニュースレターVol. 42（2021年6月発行）

コロナ時代の隣人愛

●コロナ・ピューリタニズム

精神科医の斎藤環さんが2020年4月に書いたnote記事「コロナ・ピューリタニズムの概念」は公開されて以来、多くの人に読まれ続けています。一説によるとイギリスで禁欲的ピューリタニズムが広がった遠因となったのが15～16世紀の梅毒の流行だったといわれています。21世紀の今、COVID-19のパンデミックは「自分は感染しているものと考えて行動せよ」という新しい倫理をもたらした。これを仮に「コロナ・ピューリタニズム（以下CP）」と呼ぶとするなら、CPは世界をどのように変えるのか？というのが当該記事が投げかけている問いです。斎藤さんは、CPは「他者に触れてはならない」という新しい規範をもたらしたと指摘します。また、CP以降、「親密さ」が「（飛沫や握手などによる）体液の交換」という別の意味を持つようになり、マスクによって「表情による感情の交換」もほぼ不可能になった、と。端的に言うと、CPは他者を「疫学的他者」にしてしまったのです。

隣人が「疫学的他者」になったとき、「隣人愛」はどう変わのでしょうか？言い換えると、隣人愛から「親密さ」や「接触」を差し引くということが可能なのか？可能ならばそれはどんな形になるのか？ということです。聖書のなかの「隣人愛」を連想すると、良きサマリア人の喩え、盲人の臉に泥を塗って癒す、最後の晚餐、初代教会の共食と礼拝など、「親密さと接触」を伴わない例を挙げるの方が難しいほどに、隣人愛と親密さ／接触は分かちがたく結びついています。



2020年夏にFVIから物資の支援を送ったバングラデシュの人々

●接触を伴わない親密さ

しかし、少数の「接触を伴わない親密さ」という例外があります。例えばパウロの書簡は遠方の教会とその指導者たちへの親密さに溢れていますが、そこに「接触」はありません。パウロは弱視だったという説もあり、手紙は口頭叙述を羊皮紙に代筆して書かれました。これらの手紙の多くが後に「新約聖書」と

なって 2000 年後の我々にも励ましを与え続けています。現在の私たちは羊皮紙に代筆してもらう必要もなければ、手紙を運ぶ人が難船の憂き目に遭う心配をする必要もありません。LINE や Email で地球の裏側にいる知人にも確実に思いを伝えることもできますし、Zoom や Skype で相手の顔を見ながら会話を交わすことも容易にできます。

私（陣内）は個人的な試みとして、傾聴を無料で提供する「聞き屋ボランティア」のオンライン版を始めました。今までに 7 名のお話を Zoom で聞かせていただきましたが、駅で看板を立てかけていたとき以上に親密で深い対話ができるという手応えを感じています。親密さと接触は不可分だと思いがちですが、パウロの手紙から、「接触を伴わない親密さ」を学ぶことができますし、テクノロジーを利用して、現代だからこそ「愛し方」を創造的に考案することが可能だと私は思います。他者を「疫学的他者」にすることなく、隣人として愛する方法を、教会が社会に発信していく可能性もあるわけです。

●「言葉」の力

他にも例外があります。第二列王記 5 章の、ツアラアトに冒されたナアマン將軍の物語では、エリシャはナアマンに指一本触れずにヨルダン川で 7 度身体を洗うよう指示しました。ナアマンは最初「患部に手を置いて治療してくれるものと期待していた」と怒りますが、その後エリシャの言う通りにしたところツアラアトは完治しました（9-14 節）。また、マタイによる福音書 8 章の「百人隊長のしもべの癒し」のときには、イエスが手を置いて癒そうと提案しますが、百人隊長が「おことばをくださればそれで十分です（8 節）」と主張し、イエスの言葉が人を癒すということが実証されます。

言葉には力があります。私たちが発する言葉が人を殺すこともできるということが、皮肉にもコロナ禍で可視化された「ネット虐め」による有名人の自殺により誰の目にも明らかになりました。しかし逆に言葉には「生かす力」もあるはずですし、そちらのほうが本来、神が意図した言葉の使い方と言えましょう。コロナ禍により「非言語のコミュニケーション」の役割が低下した結果、「言語的コミュニケーション」の役割は否が応でも相対的に高まりました。私たちが「肯定的な言葉を使う」ことを学ぶことこそ、コロナ禍の今、教会がすべきことだと教えられています。

（カタリスト 陣内）

その他の活動（2021 年 3～5 月）

東京武蔵野福音自由教会（武蔵野市）、立川福音自由教会（立川市）、南浦和バプテスト教会（さいたま市）、東京基督教大学（印西市・オンライン）、原発事故 10 周年福島・バンクーバーオンライン集会、万座温泉ホテル・日進館カルチャー講演会（嬭恋村）、聖望キリスト教会（市川市）、あずみのファミリーチャペル・豊かな命教会（松本市・オンライン）、玉川神の教会（世田谷区）、練馬グレースチャペル（練馬区）、愛知大学（豊橋市・オンライン）などで FVI カタリストが奉仕させていただきました（順不同）。

働きの支援、会費支払いのための送金方法

- ① 郵便振替： 口座名：「F V I」 口座番号：00180-0-300201
- ② ゆうちょ銀行、三菱東京 U F J 銀行の口座もご利用いただけます。お問い合わせください。

*このレターは、希望された方に郵送させていただいています。送付先の変更、差し止めなどは、事務局にお知らせください。

*国内のカタリストを支援する場合、カタリスト名を、海外の活動を応援する場合、国名などを通信欄にご明記ください。

●「声なき者の友」の輪 事務局 email:info@karashi.net 090-3036-2776（神田）